

令和7年度入学試験 出題の意図

選抜区分： 一般選抜第1期

科目： 政治・経済

| 大問番号 | 大問別 出題の意図 |
|------|--|
| 問題 1 | <p>議会制民主政治の由来と現代の世界の政治制度についての理解を問うものです。</p> <p>議会制民主主義が間接民主制であることを理解しているかを問い、イギリスで発達した議院内閣制とアメリカで発達した大統領制を比較することで、世界の政治制度の違いをどれだけ理解しているかを問います。</p> |
| 問題 2 | <p>日本国憲法では司法権の独立が確立されているが、裁判所が私たちの生活とどのように関わっているのか、その理解を問うものです。</p> <p>司法権の独立に関する憲法の規定や裁判の種類に関する基本的な用語の確認(問1)や裁判所の種類の確認(問2)をふまえた後、「統治行為論」についての理解(問3)を問います。</p> |
| 問題 3 | <p>日本国憲法の三大基本原理(国民主権主義・平和主義・基本的人権の尊重)の理解を問うものです。</p> <p>国民主権主義に関する憲法の条文(問1)や平和主義に関する条文(問2)についての基本的な知識を確認するとともに、民定憲法であることの意義の確認(問3)、さらには「憲法改正」の手続きについての知識を有しているか(問4)を問うことを意図しています。</p> |
| 問題 4 | <p>世界の平和と秩序のために国際連合はどのような役割をはたしてきたのか、その設立までの歴史と東西冷戦下における地域紛争の歴史についての理解を問うものです。</p> <p>その歴史の確認(問1)、総会の議決方法の確認(問2)、安全保障理事会について(問3)、さらには国連平和維持活動について(問4)の知識を有しているか問います。</p> |
| 問題 5 | <p>主に資本主義経済の特徴と変容について問う問題です。</p> <p>問1は歴史的背景にふれながら、基本的事項を問う問題です。続いて、経済活動の中心となる媒体である貨幣についての基本的な理解(問2)と、資本主義の大転換の要因となった世界恐慌についての理解度を問う問題になっています(問3、問4)。</p> <p>最後の問5は、世界恐慌以後の資本主義経済(いわゆる修正資本主義)について、別の角度「大きな政府」の内容と、現在の日本の経済体制についての考えを問う問題です。</p> |
| 問題 6 | <p>財政についての基本的な内容と課題についての理解を問う問題です。</p> <p>問1及び問2は、財政と租税についての基本的事項を問う問題です。問3は、地方に住む私たちにとって重要な財政投融资の内容を理解しているか問う問題です。問4では、経済政策の財源問題で常にとり上げられる国債についての理解度を問います。最後の問5は、現在注目されている社会問題の中で、特に社会保障制度に係る問題((1)2025年問題)と社会福祉をめぐる理念の問題((2)ノーマライゼーション)について、どのように理解し、考えているかを表現する問題になっています。</p> |